



自治体の方針が存在するか？ 柳ヶ瀬アーケード撤去も、存続も

岐阜市議会9月議会で「中心市街地の活性化」をテーマに榑橋副市長に質問しました。「中心市街地の活性化」が「商店街」の「活性化」に特化されていることには、いつまでもそれでよいのか？ 市外からの転入者への諸制度も、今の線引き地域内で実情を反映し、十分効果を上げているのか？ 色々な思いがあります。

「アーケード」についても、自治体の方針として「存続」か「撤去」か、存在しているのか？ 「商店街の方針と財政に責任転嫁」しない担当者が存在しているか？ です。

特別委員会で視察は、岐阜市理事者も「参考にしたい」と考えたからでは？

本年1月に、市議会都市活性化特別委員会で北九州市の「魚町サンロード」を視察していますが、視察先の選定には議会は勿論ですが、市理事者も現地が参考になるとの意向が働いていると思います。当然、視察にも理事者も同行されています。複数のリノベーション物件の取り組みと、商店街はアーケード撤去、市は道路の改装、国家戦略特区取り組みで「道路占用要件の一部緩和」を行い「再生実現」されています。事業のきっかけが「アーケード更新予算が無かった」事からスタートしているのは驚きです。(上・アーケード撤去前、下・後すべらない舗装と側溝)



イベントも、 毎日観る「街の風景」も

「松原さん、イベントの時だけお客さんが来るね」と柳ヶ瀬のラーメン屋さんに言われます。確かに、イベント効果はあります。道三、信長、そして光秀も、三つ目の祭り企画も良いのではと。榑橋副市長答弁で「雨の日、ジェラシックアーケードは大勢の家族連れで賑わい」を上げなければならないのは、賑わいが「神田町トランジットモールでなくても良い」と言われているようなものです。アーケードの下で「光秀まつり」も一つの仕掛けでよいのでは、と思います。大物の長崎屋さんの課題は簡単にはいかないようです。ですが、映画の廃墟のようなアーケード、上から何かぶら下がっているような風景をイベント会場から改善しなければ、全国のテレビ放送に映されます。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

適正な維持・管理を促す

映画の廃墟？ 柳瀬のアーケード

「中心市街地の活性化」以前の問題・・・



放置されたアーケードは赤錆び、雨よけか垂れ下がるビニール（柳瀬中心の旧長崎屋となり）

「現状、アーケードは、柳ヶ瀬地区にとって、商店街の構成要素の一つであることから、所有者である商店街振興組合に対し、適正な維持・管理を促すと」と榑橋副市長答弁ですが、何を以て「適正」と判断されているのか？ が、まず、問われます。

長い制度説明以前に、現状への判断力、認識は？ 「維持・管理」を促す前に、自治体は「どうしたいのか」自治体の方針が存在しているのか？

また、柳ヶ瀬全部をアーケードで囲む必要性について、固定観念に囚われても、と思います。各部をつなげた「アーケード（撤去）プロジェクト」の指揮が期待されます。



松原のりかず
☎058-253-2500